



東京都国立幼稚園・こども園長会 会報

第153号

令和8年3月6日発行

会長 鳥居三千代

江東区東陽2-1-14

03-3649-1077



わくわくぐんぐん

子どもたちと共に未来に向かって

東京都国立幼稚園・こども園長会
会長 鳥居 三千代

七月二十五日・二十六日に、第七十二回全国国立幼稚園・こども園教育研究協議会／第五十八回関東甲信越国立幼稚園・こども園長研究協議会 東京大会が「わくわくぐんぐん 未来へ進む子どもたち―国立幼稚園・こども園の存在意義を語る―」という大会テーマの下、開催されました。都園長会の会員の皆様を力を集結し、会を開催できたことを誇りに思います。皆様ありがとうございました。

今回、本会報誌にて、東京大会の報告を特集いたしましたのでご覧ください。参加された保育者・保育関係者の皆様、学びの多い会だったと感想を述べてくださったこと、休憩時間にも熱い協議をしていらしたことから、東京大会を開催してよかったと実感いたしました。都園長会の会員が結束すれば、どのようなことも乗り越えていけるという心強さを感じました。また、常に学び続ける保育者であることの大切さを改めて感じました。今後も共に学び続けてまいります。

中央教育審議会 教育課程企画特別部会より、九月二十五日に論点整理が出されました。その中で、幼児教育で考えられる方向性と論点①として「直接的・具体的な体験の一層の充実」「幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進」の二点が挙げられました。また、「幼児教育における遊びの中の直接的・具体的な体験を通じた学び」が「客観的・抽象的な認識や思考が発達していくことになる小学校以降の生活や学習の基盤となる」と記されています。これは、私たち国立幼稚園・こども園が大切にしてきた、環境を通して行う教育、幼児が主体的に遊ぶ中で、様々なことに気付き・感じ・考え・表現しながら学ぶスタイルそのものです。これからの国立幼稚園で、保育者もわくわく保育を楽しみながら、幼児が主体的に遊ぶことを通して、三つの資質・能力が育まれていることを実践で示し、幼児教育の大切さについて、様々な発信してまいります。

都幼P親子フェスタ！ 報告 『のびのびキッズ大集合』

令和七年十一月十六日

東京都公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会主催、東京都国立幼稚園・こども園長会の共催、品川区・品川区教育委員会のご後援をいただき、品川区立城南小学校アリーナにて第二十一回親子フェスタが行われ、八十八名の親子が参加した。

〇開会式

東京都公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の初澤美香会長より「親子フェスタ開催にご尽力くださった皆様に感謝申し上げます。親子で一緒に楽しみながら、子どもたちの笑顔があふれる時間になることを願っております」とお話があった。本会の鳥居三千代会長からは「品川区の皆様がありがとうございます。しながわこども笑顔プロジェクト、Sの皆様によるコンサート。親子で思いきり楽しみましょう」と挨拶があった。そして、品川区長森澤恭子様より「品川区では、独自性先進性をもって子育てや保育・教育施策を進めてきました。今後も様々な子育て支援の充実・発展に全力で取り組んでまいります。都幼Pの更なる発展を祈念します。本日は楽しみました」とご祝辞をいただいた。



〇親子で一緒に、Sスマイルコンサート『歌って遊んで楽しもう』

《講師》しながわこども笑顔プロジェクト プロジェクト、S

みんなで「エス」と呼び掛けると、しながわこども笑顔プロジェクト、Sの安藤なおこ氏、福田翔氏、近藤かをる氏三名が笑顔で登場した。

楽しい振り付きの「おはよう！」でコンサートが始まった。『しながわLOVE』では、品川の魅力を紹介してもらい、『ぐるぐる電車』では、親子の触れ合いを通して、会場が笑顔と温かさに包まれた。『パネルシアター魔法のじょうろ』の中では、『とんぼのめがね』『おつきさま』といった童謡をはじめ、みんなで作りますききをもつて楽しく踊る『すすきオレ！』、生まれ月に手を挙げて歌う『だれにだっておたんじょうび』など親子で楽しめる曲が続いた。

「今ががんばっていることは？」と問い掛けがあり、『がんばって！』で応援してもらった。最後は『ぼよん行進曲』をみんなで踊り歌った。

アンコールでは、しっとりとした雰囲気ですてきな曲で『生まれてきてくれてありがとう』『君が生まれた日』『スベシヤルなストーリー』が披露された。品川への愛情と親子の触れ合いがあふれる、心温まるひとときとなった。

〇終わりに

品川区のご協力をいただき、実行委員をはじめ各関係者が一丸となって運営し、親子で歌いながら触れ合い、子どもたちが笑顔になる楽しいコンサートとなった。

研究発表・指導講評

【研究発表Ⅰ 教育課題】「わくわく」「どきどき」「もっと…」を支える保育
 「わくわく」「どきどき」「もっと…」を支えるための工夫として、学年の壁や教師の固定観念を取り払う、幼児が様々な経験を得る機会をつくる、遊びのイメージをもつことにつながる導入や振り返りをする、などの取り組みを意識して実践を重ねた。幼児一人一人の思いや興味を捉えて、わくわく感が高まる環境を構成するとともに再構成することが重要である。

【研究発表Ⅱ 教育内容】「やってみたい」「たのしいな」「もっとやりたい」と遊び込める姿を求めて



「やってみたい」「たのしいな」「もっとやりたい」と遊び込める姿について、どのような環境の構成や援助があったのか、「学びにつながる遊びのサイクルシート」を考案し、読み取りを深めていった。「やってみたい」という意欲が「やりたい」へと連鎖していくポイントを絞って振り返るにあたっては、考案したシートを使うことで視点が定まり有効であった。

【研究発表Ⅲ 園経営】子どもが「自分も大事、友達も大事」と思える保育を目指す園経営—保育者に気付きが生まれ、お互いに学び合える教職員体制づくり—

園経営計画の重点方針に「自分を大切に、友達のよさに気付く子どもを育成する」「共通課題に取り組む教職員の協力体制づくり」を位置付け、取組指標の再検討や園内研修の充実に取り組んだ。教職員一人一人が自覚をもって園経営に関わるようになり、学び合える体制づくりにつながった。

【指導講評】文部科学省 初等中等教育局幼児教育課 幼児教育調査官 (併)教科調査官 (併)国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官 平手 咲子氏



3園の事例から、幼児が自ら進んで主体的なものごとに関わる姿、思いの実現に向けて試行錯誤しながらやってみようとする姿、思いや考えを伝え合いながら他者と協同する姿が成果として表れている。国立幼稚園・こども園の実践によって育まれた資質・能力が小学校へつながっていくには、具体的な幼児の姿で丁寧に表していくことが大切である。何を意図してその環境を構成し援助したのか、そのときの幼児の表情などからどのような心情を感じられたのか丁寧に書き表すことで、環境を通して行う教育がイメージしやすくなる。現在、中央教育審議会において学習指導要領等の改訂に向け、議論が進んでいる。小学校においても環境を通して行う教育が重要な視点となっている。今後も、小学校と連携しながら幼児の学びをつないでいっていただきたい。全国の実践に質疑応答も活発に行われ、学び多い研究発表であった。

情報交流会

分科会の講師の先生方もご来賓としてご参加くださり、全国の会員の皆様とともに和やかに交流することができた。各地域の方々との情報交換を通して新たなつながりができ、東京大会全体を通して、多くの学びを得られたという声がたくさん聞かれた。



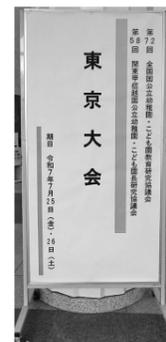
次期総会・研究大会開催地の岩手県や、次期研究大会開催地の愛知県からもご挨拶をいただいた。無事にバトンをつなぐことができたことを喜び、大きなエールを送った。全国の方々との結束力が一層強まり、和やかで熱い情報交流会となった。



第72回 全国国立幼稚園・こども園教育研究協議会 第58回 関東甲信越国立幼稚園・こども園長研究協議会 東京大会 報告

わくわくぐんぐん 未来へ進む子どもたち —国立幼稚園・こども園の存在意義を語ろう—

令和7年7月25日(金)・26日(土)
 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター



開会式

都園長会が4年間の準備期間を経て、第72回全国国立幼稚園・こども園教育研究協議会、第58回関東甲信越国立幼稚園・こども園長研究協議会が、国立オリンピック記念青少年総合センターにて行われた。



はじめに、高橋慶子大会会長、全国国立幼稚園・こども園長会会長より、「本大会が全国の地域の垣根を越えた学びの場となり、互いの実践に学び、共に高め合い、新たな気付きやつながりが生まれることを心より願っています」と和田万希子東京大会実行委員長より、「国立幼稚園・こども園に期待される役割、また、保育者の資質向上、特別支援教育の推進、預かり保育等の長時間保育の在り方、地域の中の国立園の存在意義、などの様々な課題について、皆様と大いに語り合い、学び合いましょう」と挨拶があった。

続いて、ご来賓を代表して、文部科学大臣 あべ俊子様、渋谷区教育委員会教育長 伊藤林太郎様よりご祝辞をいただいた。また、東京都知事 小池百合子様には、ビデオメッセージのご祝辞をいただいた。多数のご来賓の皆様と全国から参加した700人の会員と共に、国歌斉唱・幼稚園賛歌斉唱が行われ、期待と熱気を帯びた東京大会がスタートした。



記念講演

【演題】「狂言の教育法!? 幼児からの稽古について」 【講師】狂言師 野村 萬斎氏

野村萬斎氏によるお話に先立ち、福富英里子氏と福田成生氏による体験型の狂言講座があった。演目『柿山伏』の一端を披露してくださり、さらに、基本となる「型」のいくつかを、壇上に上がった参加者と共に会場の全員が実際に体を動かしながら行い、狂言の豊かな世界を体感した。



野村萬斎氏のご講演では、ご自身の幼少期からの多様な体験や狂言についてのお話を伺った。

後継者を育てることについては、『鞍猿』の稽古をしている映像を流しながら、狂言の稽古では、師匠がまずやってみせ客観的に子どもに感じ取ってもらうようにしていることや、「型」を身に付けることの意味などについてお話をされた。「型」については、体の動かし方を覚えることで気持ちもその動きについてくることや、自分もやってみせながらまねをさせた上で褒めることの大切さなどのお話があった。また、「構え」の大切さにも触れ、「構え」は前方向に気を向かわせることであり、内的平衡感覚を身に付けることにもなるため体がふらつかず、意識もしっかりと前に向かっていくことになるというお話があり、幼児教育にも通じるお話だった。

その他、実際に所作台を使って、NHK『にほんごであそぼ』の「ややこしや」の動きと言葉の面白さについて動きを交えて解説してくださったり、狂言の世界で重要になる「型」のひとつ「笑い」を披露してくださったり、さらには、舞いやお辞儀の姿勢なども披露してくださり、豊かで贅沢な時間を過ごすことができた記念講演であった。



分科会

東京大会の二日目には、テーマごとに五つの分科会に分かれての提案を受け、協議会を行い、講師の先生から指導助言をいただいた。

- 【教育・保育】幼児も保育者もわくわくしながら保育を楽しむ**
(助言) 共立女子大学 教授 田代 幸代氏
- 【特別支援教育】一人一人が輝き 互いに認め合える保育を目指して**
(助言) 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員(兼)センター長 久保山 茂樹氏
- 【長時間の保育】子どもが子どもらしく過ごす長時間の保育**
(助言) 聖心女子大学 名誉教授 河邊 貴子氏
- 【研究・研修の充実】保育者仲間と語り合う 学び合う**
(助言) 和洋女子大学 教授 矢藤 誠慈郎氏
- 【園経営】地域とのつながりを生かした園経営**
(助言) 文部科学省 初等中等教育局幼児教育課 幼児教育調査官 (併)教科調査官 (併)国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官 平手 咲子氏

分科会の提案10園のうち5園(杉並区立西荻北子供園、新宿区立四谷子ども園、文京区立千駄木幼稚園、お茶の水女子大学附属幼稚園、江東区立つばめ幼稚園)が東京都からの提案だった。東京都の園が取り組んでいることを、東京都だけでなく、全国から参加した先生方に知ってもらえる機会となった。

いずれの分科会も、「わくわくワークシート」を活用して、協議の視点に基づき熱い協議が行われていた。提案発表から得た気付きや学び、自園の工夫についての話が盛り上がり、休憩中も席を立つ人がほとんどなく、意見を交わしていた。

参加者からは「各園の取り組みや悩みを共有することで、『全国共通の課題』を実感し、励みにもなった」「研究・研修の充実を通して地域における中核的存在となることや、共生社会の実現に向けた先頭に立つ役割など、国立園の役割を再確認した」など、多くの感想が寄せられ実り多い分科会であった。



大会を終えて

本大会の開催に向けて、準備段階から当日の運営まで、大会実行委員長をはじめ実行委員を中心に、各部や都副園長会のメンバー一人一人が力を発揮し、準備を進めてきた。大会冊子や資料などの袋詰め作業は、実行委員の園に集まり和やかな雰囲気の中で行われた。また、大会前日には、会場設営の他、開会行事や研究発表などのリハーサルを行った。



記念講演で使用する所作台設置の舞台転換に向けては、担当の園長たちが力を合わせて繰り返し所作台を運ぶなど入念に確認が行われた。

大会当日は、大勢の参加者の学ぶ意欲や語り合う喜びに満ちあふれた全体会・分科会会場であった。全日程を終え会場を後にする参加者の皆様からは、学びの多い素晴らしい大会であったことなどの温かいお言葉と笑顔をたくさんいただき、充実した大会となった。



* 『幼児教育じほう』11月号にも大会報告が掲載されております。

会務報告

(主なもののみ掲載)

- 九月
 - 十日 東京都公立幼稚園・こども園教育研究会 講演会
- 十一月
 - 一日 日本教育会全国教育大会 大阪大会
 - 七日 東京都子供・子育て会議 (書面開催)
 - 十三日 全国国公立幼稚園・こども園長会正副会長・ブロック会長会
 - 十四日 全国国公立幼稚園・こども園長会第三回常任理事会・都道府県会長代表者会
 - 十六日 東京都公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会 都幼P親子フェスタ!
- 十二月
 - 六日 日本教育会東京都支部 講演会、理事会
- 一月
 - 二二日 東京都子供・子育て会議
- 二月
 - 五日 全国国公立幼稚園・こども園長会正副会長・ブロック会長会
 - 六日 全国国公立幼稚園・こども園長会第二回理事会
 - 十八日 東京都公立幼稚園・こども園教育研究会 研究発表会

各部報告

庶務部

部長 小林 晶子

園長会運営に関する準備・調整及び情報収集などの活動を行った。

一 定期総会

○総会要項作成・送付

二 定期役員会・幹事会(毎月一回)

○会議開催に関する諸準備

三 その他

○幹事会・役員会運営の反省収集及び次年度事業日程案・活動方針の作成

会計部

部長 島崎 智恵

一 東京都国公立幼稚園・こども園長会の会計事務

二 全国国公立幼稚園・こども園長会会費及び関東甲信越国公立幼稚園・こども園長連絡協議会分担金納入事務

三 東京都公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会計

四 幹事会・役員会会場予約、管理

渉外部

部長 芦田 敦子

一 定期総会来賓案内状発送準備・発送

二 要望書の作成(東京都教育委員会、特別区教育長会、特別区人事・厚生事務組合教育委員会)

広報部

部長 上竹 陽子

一五二号(七月発行)

文部科学省初等中等教育局幼児教育課長 前田幸宜氏の定期総会講演「東京都国公立幼稚園・こども園長会に期待すること」を中心に特集した。

一五三号(三月発行)

第七二回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会、第五八回関東甲信越国公立幼稚園・こども園長研究協議会 東京大会報告を中心に特集した。

調査部

部長 矢野 靖子

一 東京都国公立幼稚園・こども園実態調査及び報告書作成

○用紙配布・回収・集計・考察

○報告書作成・配布

○次年度の調査内容検討

二 全国国公立幼稚園・こども園現状調査協力(東京都分)

三 年度当初の東京都国公立幼稚園・こども園の園児数等の調査・集計

研修部

部長 吉羽 優子

一 人権教育に関する研修

○人権教育先進地域視察(十月)

福島県双葉郡川内村 幼保連携型認定こども園かわうち保育園

川内村立川内小中学校

○人権教育事例研修会(十二月)

講師 NPO法人 国際活動市民中心 新居みどり氏

課題研究部

部長 宮田 宏子

一 東京都国公立幼稚園・こども園の課題に関する研究

○研究主題「幼稚園教育要領等の実践を通して幼児の資質・能力を育む園長の役割」

○講演会実施(八月)

講師 聖徳大学教授 河合優子氏

○毎月一回、部会を実施

○研究リーフレット発行・ホームページ掲載(三月)

東京大会実行委員会

事務局長 足立 祐子

全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会及び関東甲信越国公立幼稚園・こども園長研究協議会 東京大会の企画、準備、運営を、実行委員会を中心に、各部ごとに遂行した。